

お前の弟アベルは、どこにいるのか

ー現代の無縁社会の闇ー

奨励	木原 活信〔きはら・かつのぶ〕
奨励者紹介	同志社大学社会学部教授
研究テーマ	ソーシャルワークの思想と哲学

主はカインに言われた。

「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」

カインは答えた。

「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」

（創世記 4章9節）

愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

（ヨハネの手紙一 4章7ー11節）

皆さん、おはようございます。木原活信と申します。今日のタイトルが「お前の弟アベルはどこにいるのか」、これだけを見て何だろうかと思われたかもしれません。実は昨年、この場所でお話させていただく機会がありまして、そのときのテーマが「あなたはどこにいるのか」でありました。きっとそんな話は忘れておられると思われるますが、今日は「あなたはどこにいるのか」の続きということで、「お前の弟アベルはどこにいるのか」という話をさせていただきたいと思っています。

白骨化した死体

いきなりですが、怖い文章を読み上げます。これは京都市によって「行旅病人及行旅死亡人（こうりょびょうにんおよびこうりょしぼうにん）取扱法」に基づき告示された公開文章です。「行旅病人及行旅死亡人取扱法第7条の規程に基づき、下記の者の遺体を火葬、遺骨は京都市深草墓苑に納骨する。同法第9条の規程に基づいて告示する。心当たりの方は区役所まで申し出ください。本籍、氏名、住所不詳。年齢30代前半～40代後半。性別・男性。死亡日時、不詳。発見時から経過2年以上と推定。発見された状況、平成〇〇年〇〇月〇〇日2時5分頃。北側山中で発見された、白骨化した頭蓋骨」。別のものでは、「年齢、本籍、氏名不詳。年齢30代～40代後半。性別・男性。死亡日時、不詳。発見時から経過3年以上と推定。平成〇〇年〇〇月〇〇日（住所省略）。北側山中で発見された。死亡の状況、現場の上に吊るされたロープが見られることから自殺と思われる。特徴、白骨化した胴体部分から身長160センチくらい、ベージュ色ベスト、黒色運動靴、所持品、現金536円。腐食が進み金銭として使用できない状況。眼鏡、懐中時計、手帳等」となっています。

これを見られて、どのようにお考えになるでしょうか。社会福祉の法律に「行旅病人及行旅死亡人取扱法」というものがあります。最近では、社会福祉学科でもこれについては扱わなくなっています。私は、近所の役所でこの文書が公示されているのを見かけて心痛むものを感じました。『アノニマスケイブ こんにちは二十世紀』（平成写真文庫 2002年）という本を細川文昌さんが出版されましたが、役所の公告写真とともに掲載してあるだけのものです。何の解説もありません。きっと私と同じように、この問題に対して感じるものがあつたんだろうなと思いました。

こういった人たちの数は稀な話だろうとお思いであるならば、自分の近くの役場に行って同様の告示文章を見てみてください。自分の身近な場所に「白骨化した死体」があつたのか、というようなことが起きているのに驚くことがあるかもしれませんが、これが現代の社会であります。NHKで話題になりました「無縁社会～“無縁死” 3万2000人の衝撃～」という番組があり私も見ましたが、同じような実態が淡々と描かれていました。

日本の無縁社会の闇

ミイラ化した死体の事例もありました。家族が住んでいて、その2階にミイラ化した死体が見つかった。死後推定10年と見られる。同じ家の中の2階にミイラ化した死体が見つかった。この問題、欧米の社会学者が興味をもちまして「日本って幸せな国で、世界一治安がいい国だ。なのにこの実態はどういうことなのか」ということで、アメリカ、韓国に行って話す機会がありました。日本でこの話をしてもあまり反応がありませんが、外国ではなぜそうなのか、社会にはいろいろな闇があるけれど、とても理解できないという反応でした。けれど、多くの人たちが、無縁のなかで亡くなっているという現実であります。OECD加盟国のなかで「無縁社会」でデータをとりますと、日本が世界のなかで最も孤立している、個人個人が孤立しているというデータが、明らかになりました。本川裕さん（統計データ分析家）の調査です。世界各国がそのデータに注目しています。日本の孤立している無縁化社会の実情をもっと明らかにしなければならぬと思います。私は今日、この問題を探り上げないといけないという思いでこの場に立ちました。

「あなたはどこにいるのか」

さて、先ほど読んでいただいた聖書の箇所に戻ってみたいと思います。私は昨年、「あなたはどこにいるのか」というテーマでお話しました。昨年も高校生の方がおられて、また同じ方が来られていますね、ありがとうございます。何かの縁があるんですね。神を無視し、神から離れて逃れたアダムに対して神が言われた最初の問いが、「あなたはどこにいるのか」というものでした。キリスト教的に言えば罪というもの、アウグスチヌスが言う原罪というものですが、その罪というものを人間は何とか誤魔化して生きようとする。自分自身の経験を交えてお話をしました。罪から逃げて、隠れようとする。それに対して神は「あなたはどこにいるのですか」と問われる。これが第一の問い。一人の人、アダムを代表して話をしているのであって、私たち皆に問いかけられていることではないかというのが私の結論でした。「あなたはどこにいるのか」という共通の問いかけです。

「あなたの弟アベルはどこにいるのか」

今日テーマとして採り上げたのは、「あなたの弟アベルはどこにいるのか」。若干、前後関係の聖書の箇所を説明しますと、アダムとエバが楽園を追放されて家庭をもって子どもが生まれました。カインとアベルという兄弟でした。しかし、兄弟間で殺人してしまう。神の祝福をめぐってカインはアベルに対して妬みを持ちました。野原で、兄が弟を殺しました。弟の血が流された殺人事件が、リアルに書かれている。これに対して神は、「お前の弟アベルはどこにいるのか」という問いを投げかけられました。何かこの言葉に背中が凍るような思いになりました。

これに対する答えは何だったんでしょうか。兄カインは、「知りません」と答えたのです。殺人を犯しておいて「知りません」と言い、さらに「私は弟の番人でしょうか」と答えたのです。

「私は弟の番人でしょうか」

さて、私たちはどうでしょうか。今、「お前の〇〇はどこにいるのか」と問われたとき、私たちも「知りません。私は〇〇の番人でしょうか」と答えていないかなと思われれます。これは実は、私たちが人間の本来あるべき姿から離れてしまっている状況を指し示しているのではないかなと思われれます。それは自分の関係、人間関係における責任を放棄してしまう、まさに行き過ぎた個人主義の結果だと思います。

先ほどの役所の公示した「白骨化した死体」の話をもう一度想起してみてください。もちろん、私は、亡くなったその人を知りません。でも、福祉の専門家でありながら他人事のように考えていたように思います。しかし、もし神に「あの人はどこにいるんですか」と問われたら、「知りません、私はその人の番人でしょうか」と、きっと答えると思います。しかし、これは個人個人に関して、関係性を放棄してしまっている人間の姿、実は人間本来の姿から離れてしまっているのではないかなと思われれたのです。

「無関心という名の殺人」

人間は関係存在として生きていくものであると思います。しかし、「知りません、私は関知しません」というのはどういうことでしょうか。私は、福岡県の筑豊の出身です。そこで牧師をしておられる犬養光博先生は同志社の出身ですが、その犬養先生がNHKの「心の時代」という番組に出ておられました。そこで言われた言葉は、印象的でした。犬養先生の言われたのは「無関心という名の殺人」という言葉でした。犬養先生は筑豊の炭鉱の町に入っていて、そこの人々と、ともに生きることを選択されました。筑豊が抱える貧困問題や、カネミ油症の問題、そこから逃げて「私は知りません。私はこの教会の牧師ですから」と言った自分に対して「無関心という名の殺人」と自省されたと言われました。その後の人生をこれらの問題にかかわるようになったと話をされていました。

ある学生のこと

最近ある学生が私の研究室を訪ねてきました。その学生は兄弟がおりまして、弟が重度の障がいをもっている。「自分は別の学部で勉強しているが、最近になって、どうしてもこの問題を避けて通れないと思うようになったから、ぜひ、社会福祉の勉強をしたい」と真剣な顔をして言いました。その学生のまなざし、目つきは本物だったように思います。高校まではその話題になると避けていた。でも今、その問題に向き合って、重度の障がいを抱えている弟のことを知らなかった自分に対して、大いに反省したという出来事について話してくれました。別の大学院の学生も、兄弟に重度の障がいをもっている学生がいて、「兄弟に障がいをもつこと」というテーマで研究に取り組んでいます。彼女は他学部で勉強していましたが、「福祉をやりたい」と福祉学科の私の門を叩いてきました。福祉を目指したプロセスにはきっと紆余曲折あったのだと思いますが、今日のテーマで言うなら、「知りません。私は弟の番人でしょうか」という答えから、「私は知らないといけない。私は弟の番人です」という答えへの転換があったようです。

つながりを求める若者たち

さて、人間本来の姿は、そのようにお互いをいたわり合い、愛し合う、大切にすることであると思います。本来、人間は創造されたときから神に似て、神にかたどって祝福されたものとして創造されたはずで。その人間が自分の責任を放棄する、これは第一の問い、「あなたはどこにいるのか。あなたは神を離れてどこにさまよっているんですか。神を無視してどこをさまよっているんですか」という問いと密接につながってくると思います。そして第二の問い、今度は人間関係において「あなたの弟アベルはどこにいるんですか」という、神を無視した人間は実はお互いの関係のなかにおいても愛し合うことを忘れてしまっているのではないかと、ということにつながると思われます。

先ほど、無縁社会という言葉を使いましたが、これは血縁、地縁、社縁という三つの「縁」から完全に離れてしまったことを言います。この日本のなかにはどれほど多くいるのか、実態をぜひ知っていただきたいと思います。いや、その実態を知らなくても最近とみに感ずることがあります。今の若者たちと接していて、孤立を痛切に感じるようになりました。ブログを書いたり、フェイスブックとかツイッターで発信したりしています。それはつながりを求めているわけですね。でもそれは、つながらないと不安だという意識の裏返しではないでしょうか。学生と滋賀県にある同志社大学のリトリートセンターに合宿で行きますと、学生がまずやること、何だと思いますか。共通しています。滋賀に着いた、きれいだな、天気がいいな、と私ならばその美しい自然を味わいます。でも学生は違います。携帯の電波がつながるかどうかが、これが死活問題です。「ソフトバンクはだめだけど、ドコモはいい」とか言い合っている。つながっていないから確かに不安になる。つながりたいと人間は思っている。きっとそうだと思います。

精神科医のロナルド・D・レーンがこういうことを言っています。「すべての人間存在は子供であれ大人であれ、意味、すなわち、他人の世界のなかでの場所を必要としているように思われる。(中略)少なくともひとりの他者の世界のなかで、場所を占めたいというのは、普遍的な人間的欲求であるように思われる」(志貴晴彦 笠原嘉訳『自己と他者』みすず書房 1975年)と。他人のなかでの一人に、その人の場所を占めたいという人間の思いというのは、この創世記のカインの時代から今日に至るまで変わってないんじゃないか。しかし、それを結果的には否定してしまうようなことをしてしまう。

無縁社会への処方箋

最後に、無縁社会の間に対する処方箋についてお話して終わりたいと思います。本日お読みしました新約聖書のところに答えがあると確信しています。それはこのように書いてありました。神は「互いに愛し合ひましょう」という呼びかけとともに、このヨハネの手紙一4章9節、「神は、独り子を世にお遣わしになりました」。独り子とは、イエス・キリストのことです。「その方によってわたしたちが生きるようになるためです」。非常に力強いことだと思います。イエスによって生きるようになる。「ここに、神の愛がわたしたちのうちに示されました」と言うのです。とかく私たちは「神様を愛しましょう」と言うけれども、ここに書いてあるのは、私たち(人間)が、神を愛したのではなく、神が私たちを愛して私たちの罪を償うために生贄として御子イエスを遣わされたのです。ここに愛がある。一方的に神の方が、私たちを愛してくださったというのが「福音」ということになります。「失われた人を探するためにイエスはきた」というのがその具体的な表れです。

この無縁社会の闇のなかであって、失ってしまった人間関係を回復させるために、イエスが来たのです。それによって私たちが「生きるように」なるために。まさに私たちが本来の人間の姿を回復するためです。その上でヨハネの手紙一4章11節にあるように、「愛する者たち、神がこのように私たちを愛されたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです」という本来の人間関係に、深く、深く入っていくことへ導かれていくことができるのです。それこそが私たちの本来の姿であり、自己中心な社会へ与えられた処方箋であると強く確信しております。

「お前の弟アベルはどこにいるのか」という問いかけは現代も続いていると思います。「知りません」ではなく、私は知らなければいけません。「私は弟の番人でしょうか」という問いに対して「はい、私は弟(隣人)の番人になろうと思います」と答えなければならないのではないのでしょうか。以上で話を終わらせていただきます。

2014年5月14日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録

<HPでは傍点を省略しております。詳細は冊子体の『チャペル・アワー奨励集 292号』をご覧ください。>